

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 22 日現在

機関番号：27301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590040

研究課題名(和文)ハンガリーの体制転換(1989)と国際環境の史的考察

研究課題名(英文)Historical Study of the Hungarian System Change of 1989 and foreign policy

研究代表者

荻野 晃(Ogino, Akira)

長崎県立大学・国際情報学部・教授

研究者番号：10405566

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：体制転換期(1988～1989年)のハンガリー外交について、ソ連、東ドイツ、ルーマニアとの関係に焦点をあてて考察した。2013年度には、カーダール書記長の退陣にいたるまでの対ソ関係を分析した。次に、2014年度には、西ドイツ亡命を希望する東ドイツ市民へのオーストリア国境の開放をめぐる東ドイツとの交渉過程を検証した。最終の2015年度には、1980年代後半の難民流入をめぐるルーマニアとの関係を中心に論じた。研究を進めていく過程で、体制転換の国際的背景としてのヒトの移動の自由の重要性を理解できた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to examine Hungarian foreign policy during the System Change(1988-1989). Especially the study was referred to relations with the Soviet Union, East Germany and Romania. In the first year, the author regarded an external factor of Janos Kadar's downfall, who was the General Secretary of the Hungarian Socialist Workers' Party, as important. In the second year, he analyzed how Hungary opened the border of Austria to let East German citizen leave for West Germany. In the final year, he focused on how Hungary coped with refugee from Romania. He argued that freedom of migration was important to an international background of the System Change.

研究分野：政治学

キーワード：新思考外交 ペレストロイカの輸出 体制転換 カーダール書記長の辞任 鉄のカーテン オーストリア国境の開放 ルーマニアからの難民 ヒトの移動の自由

1. 研究開始当初の背景

(1) 2013～2015年の時期、1989年の東欧における体制転換から四半世紀が経過しようとしていたことが、本研究を始める当初の背景にあった。とくに、ハンガリーにおける体制転換を、外交文書などの一次史料を用いた歴史として分析することが研究の直接の動機となった。何故ならば、ハンガリーは冷戦終結へとむかう1989年当時の国際情勢の激変で重要な役割を果たしたと認識していたからであった。

(2) 1989年当時、ハンガリーは国内政治において他の東欧諸国に先駆けて複数政党制を導入して、対外政策では西の隣国オーストリアとの国境に張りめぐらされた高圧電流の流れる鉄条網の撤去に踏み切った。そして、オーストリア国境を開放したことが、まもなく東ドイツの一元独裁体制の瓦解、ベルリンの壁崩壊、冷戦の終結へと続く国際情勢の激変の序幕となった。

(3) さらに、実際に研究を始めるにあたって、1989年の体制転換に至る前段階、具体的には1988年段階におけるハンガリーを取りまく国際環境、ハンガリーの対外政策に生じた変化とその要因を探る必要性も認識した。

2. 研究の目的

(1) 本研究以前に行ってきた1950年代半ば以降のハンガリー外交史の研究成果を踏まえながら、さらに1989年の冷戦終結当時のハンガリー外交を検証することを研究目的とした。とくに、1989年当時のハンガリーを取りまく国際環境を考察することにあつた。

(2) 同時に、体制転換後のハンガリーを含む中・東欧の安全保障政策、民主的な政軍関係の確立に関する研究の経験をもとに、1988～1989年にハンガリーで民主化が進行した過程、その国際的背景を一次史料に依拠した歴史として検証することの必要性を確信した。

(3) 具体的な3か年の研究の目的を、以下のように設定した。

1985年のソ連共産党書記長ゴルバチョフの登場から1989年の体制転換に至るハンガリー・ソ連関係の分析。とくに、1988年の書記長交代劇の背景に焦点をあてる。

1989年のハンガリーによる東ドイツ市民へのオーストリア国境開放の政策決定と歴史的意義の再検証。具体的には、国境開放が何をもたらしたのかを明らかにする。

体制転換期のハンガリー外交における

対ルーマニア関係の重要性の考察。とくに、ルーマニア国内のハンガリー系少数民族政策をめぐる二国間の対立に焦点をあてる。分析に際して、最も重要となるのはルーマニアから流入する難民をめぐる交渉である。

3. 研究の方法

(1) 初年度のソ連・ハンガリー関係の分析にあたり、エトヴェシュ・ロラード大学(ブダペスト大学)留学時代の恩師であったフェグレイン教授から研究を進めていくうえでの教示を受けた。その結果、1988年のカーダール書記長辞任に至るまでのゴルバチョフ・カーダールの指導者間の関係に焦点をあてる手法で分析を行った。その際、一次史料として、ハンガリー国立公文書館で収集した社会主義労働者党政治局、中央委員会の議事録に加えて旧ソ連共産党のソ連・ハンガリー関係に関するハンガリー語訳の刊行資料集を用いた。さらに、欧米諸国における先行研究から、ゴルバチョフによる東欧諸国への「ペレストロイカの輸出」(H.ハードマン)という分析視角を論説の作成の過程で取り入れた。

(2) 2年目の研究では、ハンガリーのオーストリア国境開放の政策決定に関して、東ドイツとの二国間関係に焦点をあてて論じた。はじめに、ハンガリー語で書かれた先行研究を精読して、研究動向の把握につとめた。次に、具体的な研究方法として、ハンガリー国立公文書館で収集した外務省の東西ドイツとの関係に関する文書、ドイツ語で書かれたドイツ統一に関する西ドイツ政府の刊行資料集を精査して、ハンガリー政府が1989年夏に西ドイツへの亡命を求めて自国に殺到した東ドイツ市民にオーストリアへの出国を認める決定を下す過程を検証した。さらに、当時の政策決定に影響を及ぼしたホルン外相やホルヴァート駐西ドイツ大使の回想録も参照した。

(3) 最終年度の研究では、1985年以降にルーマニアから流入した難民問題に焦点をあてて、1988年5月のカーダール書記長辞任を契機に体制転換に向かう段階におけるハンガリー外交に生じた変化を考察した。分析に際して、ハンガリー国立公文書館で収集した社会主義労働者党政治局の議事録、対ルーマニア関係に関する外務省の文書を精査した。そして、1988年6月のルーマニアのトランシルヴァニア地方の主要都市クルージュ・ナボカのハンガリー総領事館の閉鎖と館員の国外退去、1同年8月に11年ぶりに開催された二国間での首脳会談、同年9月にブルガリアの首都ソフィアのハンガリー大使館に保護を求めたハンガリー系ルーマニア人への対応を中心に二国間の交渉と関係悪化を検証した。さらに、当時のルーマニアとの交渉に

あたるスールシュ社会主義労働者党中央委員会書記、スーチ駐ルーマニア大使の回想録も参照した。

4. 研究成果

(1) 初年度の研究において、ゴルバチョフ登場後のソ連・ハンガリー関係について、従来の欧米における先行研究で指摘されたようなペレストロイカやグラスノチを掲げたゴルバチョフと1960年代以降に経済改革を実施してきたカーダールとの指導者間の良好な関係が構築されたのではなく、ゴルバチョフにとって、カーダールの早期退陣とハンガリー社会主義労働者党指導部の刷新が東欧への「ペレストロイカの輸出」の最初の目標となった点を考察できた。具体的には、ゴルバチョフは自身の国内政治路線と歩調の合う穏健な改革を志向するグロースを支持することで、カーダールにとってソ連の意向による指導者交代を阻むために不可欠な左右両極との「二正面闘争」にもとづく社会主義労働者党内の共闘関係の瓦解を促進させたことを論じた。

(主要な参考文献)

Magyar Nemzeti Levéltár Országos

Levéltár [ハンガリー国立公文書館] (MNL OL) MDP-MSZMP Iratok [ハンガリー勤労者党 社会主義労働者党文書].

Szerk.: Baráth Magdolna, Rainer M. János.

Gorbacsov tárgyalásai magyar vezetőkkel: Dokumentumok az egykori SZKP és MSZMP archivumaiból 1985-1991 [ゴルバチョフとハンガリー指導者との協議 旧ソ連共産党、ハンガリー社会主義労働者党文書からの資料集 1985 - 1991年] (Budapest: 1956-os Intézet, 2000).

Helen Hardman, *Gorbachev's Export of Perestroika to Eastern Europe: Democratisation Reconsidered* (Manchester: Manchester University Press, 2012).

(2) 2年目の研究では、1989年9月のハンガリーによる西ドイツ亡命を希望する東ドイツ人の出国許可、国境開放の決定が、1989年3月に調印した難民条約の加盟国としての人道的見地のみならず、東側陣営の「同盟」の論理から主権国家の「国益」の論理にもとづく外交への変化による結果であったことを指摘した。さらに、ハンガリーによるオーストリア国境の開放の歴史的な意義を述べた。具体的には、これまでの先行研究で指摘されたような1989年9月11日の国境開放がベルリンの壁崩壊から東ドイツ国家の解体とドイツ再統一への一連の流れの導火線というよりも、むしろゴルバチョフによるペレストロイカの開始後に生じていた東側陣営内部における奇妙なパワーバランスの崩壊による陣営そのものの解体への第一歩とな

ったことを論じた。

(主要な参考文献)

MNL OL MDP-MSZMP Iratok.

MNL OL KÜM Iratok NDK 1989 [外務省文書 東ドイツ 1989年].

Oplátka András, *Egy döntés története:*

Magyar határnyitás-1989 szeptember 11 nulla óra [ある決定の歴史 - ハンガリーの国境開放 1989年9月11日零時] (Budapest: Herlikon, 2008).

Horváth István, *Az elszalasztott*

lehetőség: A magyar-német kapcsolatok 1980-1991 [見過ごされた可能性 - ハンガリー・ドイツ関係 1980 - 1991年] (Budapest: Corvina Kiadó, 2009).

(3) 最終年度の研究では、1988年5月にカーダールに代わりハンガリー社会主義労働者党書記長に就任したグロースにとっての対ルーマニア関係の重要性を論じた。具体的な見解は、次のとおりである。1980年代後半以降に急増したルーマニアからの難民の問題への対処は、グロースには経済危機の克服とならぶ重要な政策課題であった。グロースは首脳会談で事態を開示しようとした。だが、グロースとルーマニア大統領チャウシェスクとの首脳会談は不調に終わった。対ルーマニア関係におけるグロースの躓きは、1989年の体制転換への動きを加速させる一因にもなった。さらに、グロースの政治的な意図にかかわらず、ブルガリアのハンガリー大使館でのハンガリー系ルーマニア人の亡命問題は、ハンガリーが国連難民高等弁務官事務所などの国際機関の支援を得るために難民条約に加盟する契機となった点も指摘した。

(主要な参考文献)

MNL OL MDP-MSZMP Iratok.

MNL OL KÜM Iratok Románia 1988 [外務省文書 ルーマニア 1988年].

Földes György, *Magyarország, Románia és a nemzeti kérdés - 1956-1989* [ハンガリー、ルーマニア、民族問題 1956 - 1989年] (Napvilág Kiadó, 2007).

Kászas Veronika, *Erdélyi menekültek*

Magyarországon 1988-89 [ハンガリーにおけるトランシルヴァニア難民 1988 - 89年] (Budapest: Gondolat, 2015).

(4) 3年間の研究を進めていく過程において、ハンガリーと他の社会主義諸国との指導者間の関係のみならず、ルーマニアから流入したハンガリー系少数民族の難民、西ドイツ亡命を意図して殺到した東ドイツ市民へのハンガリーの対応を通して体制転換の国際的背景としてのヒトの移動の自由の重要性を理解できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

荻野 晃「ハンガリー・ルーマニア関係 (1988) 社会主義国家間の難民問題」『法と政治』(関西学院大学法政学会) 査読無、第 67 巻第 2 号、2016 年 8 月。

荻野 晃「ハンガリーのオーストリア国境の開放 (1989) 対東ドイツ交渉を中心に」『法と政治』(関西学院大学法政学会) 査読無、第 66 巻第 1 号、2015 年 5 月、137-162 頁。

荻野 晃「カーダール時代の終焉 (1988) とソ連・ハンガリー関係」『法と政治』(関西学院大学法政学会) 査読無、第 65 巻第 1 号、2014 年 5 月、147-167 頁。

[学会発表](計 2 件)

荻野 晃「ハンガリー・ルーマニア関係 (1988) 社会主義国家間の難民問題」ハンガリー学会第 4 回研究大会、愛知産業大学名古屋スクーリング会場 (愛知県)、2016 年 2 月 20 日。

荻野 晃「ハンガリーのオーストリア国境の開放 (1989) 東ドイツとの交渉を中心に」ハンガリー学会第 3 回研究大会、関西外国語大学 (大阪府)、2014 年 12 月 13 日。

6. 研究組織

(1) 研究代表者 荻野 晃 (Ogino Akira)
長崎県立大学国際情報学部
教授

研究者番号 : 10405566